

対策計画名：海の京都エリアにおけるオーバーツーリズム緩和のための
デジタル連携による広域周遊・分散計画

申請主体：WILLER株式会社、対象地域：京都府北部（海の京都エリア）、兵庫県豊岡市

交付決定前

現状・課題

■観光客の動向

・京都府北部(海の京都エリア)の入込客数(宿泊数)

※ 出典元：京都府観光客入込客調査(府観光室)

	2019年	2023年	2024年
入込観光客数	1,437,077	1,351,164	1,538,705
国内（人）	1,358,507	1,268,571	1,428,186
インバウンド（人）	78,570	82,593	110,519

■現状の分析・課題

・京都府北部地域を含む北近畿エリアは、観光資源が広域に点在する一方、観光客が伊根、天橋立などの一部有名観光地に集中し、オーバーツーリズムが課題となっている。

現状・問題点		影響を受けている 主な対象
点在観光地の認知	・ 人気観光地の混雑時間が偏っている ・ 人気観光地以外の点在する観光地が知られていない	観光客・観光地 観光客・観光地
観光地間の移動	・ 観光への移動手段自体と検索アプリの認知が不十分 ・ 観光地間の移動ニーズについて定量的データがなく、交通計画が立てにくい	観光客 交通事業者

目指す姿・KGI

■目指す姿

天橋立・伊根に急増する観光客を時間的・空間的に分散させる

■KGI

天橋立・伊根の観光客のMaaSアプリ「mobi」利用による分散に関する行動変容

①アプリコンテンツを参考に旅程作成したユーザー割合 現状値：測定値なし 目標値：50%

②天橋立・伊根エリアから他地域へのマルチ検索件数 現状値：57回/月 目標値：150回/月

KGIの設定理由：

・昨年度の取組により、アプリの検索機能ならびにデジタルチケットの販売が、公共交通の乗り継ぎのハードルを下げ、訪問場所数増加を促している可能性が示されている

・アプリを通じて、時間的分散を目的とした混雑観光地の閑散時間のコンテンツや、他の観光地へ誘導する観光コンテンツを観光客へ旅前・旅中で発信し、天橋立・伊根の観光を検討していた観光客の旅程に変容を与え、時間的・空間的な分散ができたかを測る

・アプリのエンドコンテンツを参考にしながらアプリで検索していない旅行者も計測する

KGIの測定方法：

①期間中にMaaSアプリを利用した観光客にアンケートを実施し、今回のアプリから提供されるコンテンツや交通サービスにより旅程を検討しているか設問を設定する

②マルチ検索利用状況をデータ基盤から抽出し、月次で集計し、計測する

実施体制

協議会名	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会
実施方法	既存会議
参画者	<行政機関> 京都府、兵庫県、福知山市、舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、豊岡市 <事業者> 北近畿タンゴ鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社、一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社、丹後海陸交通株式会社、日本交通・京都交通株式会社、全但バス株式会社、WILLER株式会社、WILLER TRAINS株式会社 <住民関係者> 京都府立大江高校PTA、宮津市地域女性の会、京丹後市老人クラブ連合会、舞鶴市社会教育委員会、与謝野町地区区会長 <有識者> 京都大学中川名誉教授、龍谷大学井上教授、福知山公立大学谷口教授、京都市観光協会那須氏
住民参画手法	京都府立大江高校PTA、宮津市地域女性の会、京丹後市老人クラブ連合会、舞鶴市社会教育委員会、与謝野町地区区会長が住民代表として協議会の構成員として参画
1回目	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会（2026年7月頃）
2回目	北近畿タンゴ鉄道生活交通改善計画に関する協議会（2027年3月頃）

過年度の取組概要

2025年度に日本版MaaS推進支援事業で、沿線交通リデザインプロジェクトを実施し、観光MaaSアプリの開発を行い、京丹後における実績値は以下の通り。課題としてはプロモーションが京丹後鉄道線内にとどまり、海外顧客にアプローチが十分できなかった点が残る

エンドコンテンツ（クーポン、アクティビティ）利用数 98件（2月単月）

アプリ内での経路検索回数 757回（2月単月）

アプリ利用者は、非利用者に比べて「1回の旅行で訪れる観光エリア数」が平均で0.6箇所多い

天橋立エリア⇒京丹後市への経路検索回数 57回（2月単月）

対策計画名：海の京都エリアにおけるオーバーツーリズム緩和のための

デジタル連携による広域周遊・分散計画

申請主体：WILLER株式会社、対象地域：京都府北部（海の京都エリア）、兵庫県豊岡市

交付決定前

事業実施地域・エリア

※地図、観光案内図などを添付し、事業を実施するスポット・エリアについて、明記するようにしてください。

※また、過度な混雑やマナー違反行為等の観光課題が確認される場所が分かるように明示していただく他、生じている課題について簡単に解説するようにしてください。

取組内容

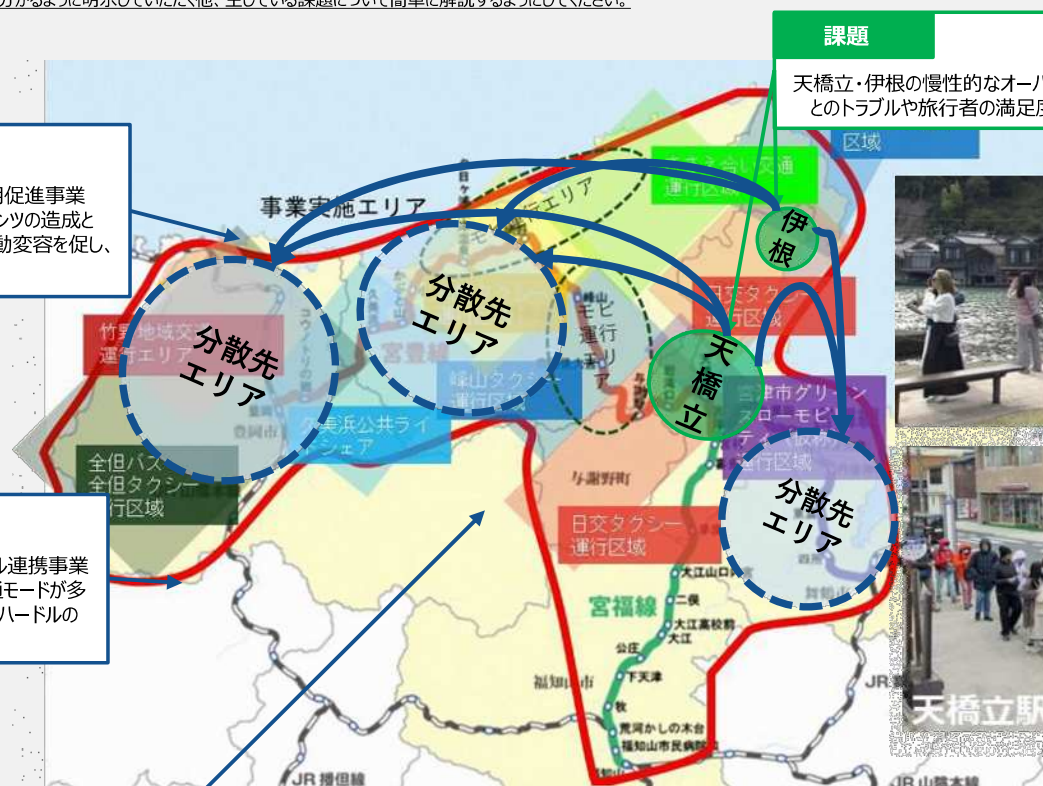
・時間的、空間的分散を目的としたエンドコンテンツ造成・利用促進事業
オーバーツーリズムが発生している場所・時間帯を避けたコンテンツの造成と
旅前・旅中でのコンテンツならびにアプリの周知を強化し、行動変容を促し、
観光客の満足度向上を図る

取組内容

・分散・周遊に向けたシームレスな広域移動を実現するデジタル連携事業
多言語に対応したMaaSアプリの広域対応により、様々な交通モードが多
言語かつ広域でシームレスに検索できる。これにより、移動のハードルの
低減を図り、広域での分散・回遊を促す

取組内容

・分散に向けたモビリティ・データの取得と計画立案事業
MaaSアプリから取得可能な鉄道、路線バス、コミュニティバス、オンデマ
ンド交通（公共ライドシェア）等の既存公共交通の予約・利用データを一
元的に収集、分析し次年度の需要予測・分散施策を検討する



課題

天橋立・伊根の慢性的なオーバーツーリズムによる、交通渋滞、地域住民
とのトラブルや旅行者の満足度の低下



- オーバーツーリズムが発生しているエリア
時間・空間的分散が必要
- 空間的分散先の重点エリア
- MaaS対象エリア

交付決定前

補助事業名：分散・周遊に向けたシームレスな広域移動を実現するデジタル連携事業

補助対象事業者名：WILLER株式会社

対策計画名：海の京都エリアにおけるオーバーツーリズム緩和のための

デジタル連携による広域周遊・分散計画

申請主体：WILLER株式会社、対象地域：京都府北部（海の京都エリア）、兵庫県豊岡市

交付決定前

事業目的

- 京都府北部地域を含む北近畿エリアは、観光資源が広域に点在する一方、観光客が伊根、天橋立などの一部有名観光地に集中している実情に対し、MaaSアプリが回遊のハードルを下げる過去実績から、MaaSアプリのマルチモーダル検索での検索対象交通を増やし、エリアを広域にすることで点在する観光資源への移動手段を提示し、回遊を促し、観光客の分散を図る
- 京都丹後鉄道を基軸に2次交通を担う交通事業者と連携し、エンドコンテンツの充実化と並行して、エンドコンテンツへの移動経路を提示するとともに、1つのアプリで予約・決済サービスを一体的に提供することで、インバウンドを含む観光客の回遊促進、観光消費拡大、観光客の分散を実現する。

KPI（事業目標設定）

現状値：マルチ検索利用数：757件/月（2月単月）、天橋立エリア⇒京丹後市への経路検索回数 57回（2月単月）

アプリ利用者の訪問場所数：2.8か所

目標値：マルチ検索利用数：3,000回/月、天橋立・伊根エリアから他地域へのマルチ検索件数：150回/月

アプリ利用者の訪問場所数：3か所

KPIの設定理由：

本機能の利用状況を把握するため、回遊促進を目的としたマルチ検索機能の利用実態を分析するとともに、当該検索機能が訪問場所数に与える影響について定量的に検証する。

KPIの測定方法：

MaaSアプリと連携しているデータ基盤システムを活用し、計測する
訪問場所数については、アプリ利用者にアンケートを実施する

事業概要

※実施する事業について、どこで、いつ、だれが、何を目的に、どのように実施するかを明記するようにしてください。
※また、特に実証事業に当たっては、今回申請する手段・手法を選択した背景・考え方について、明記するようにしてください。
※実施するに当たって、他事業者による取組と比較して本事業が有意であると考えられるポイントについて、あれば明記するようにしてください。

【目的・趣旨】

府県境を跨ぐ広域エリアにおいて、鉄道、バス、公共ライドシェア、シェアサイクル、ケーブルカー、観光船等の交通インフラをアプリ上で連携、統合させ、リアルタイムな最適経路検索と、シームレスな乗り継ぎ案内を実現し、広域的な回遊を促進する。

【実施方法】

- 丹鉄沿線MaaSアプリ「mobi」の対応地域と参画事業者を丹鉄沿線全域に拡大し、広域連携とデジタルチケット利用範囲を拡大し広域におけるマルチモーダル検索により回遊を促進する。
- 指定した出発時刻で検索できるマルチモーダル検索環境を構築し、観光客の旅程計画時の利便性を向上させ、利用数を増加させ、アプリを通じた旅程計画、エンドコンテンツ予約、交通利用を促す。
- 経路検索で表示される一連の交通チケットの一部を同じアプリ内で購入・決済させることで、各窓口での発券手間を排除し、インバウンドをはじめとする言葉の壁を越えた観光客受け入れ環境の高度化を図る

【実施詳細】マルチモーダル検索対象交通 ※★は今回追加交通

【鉄道】

- 京都丹後鉄道（全線）

【バス】

- 丹後海陸交通（丹海バス）
- 京丹後市営バス
- 全但バス ★

【その他】

- ケーブルカー ★
- 観光船 ★
- シェアサイクル

【タクシー】

- 峰山タクシー
- 網野タクシー
- 日交タクシー
- 全但タクシー ★

【AIオンデマンド交通】

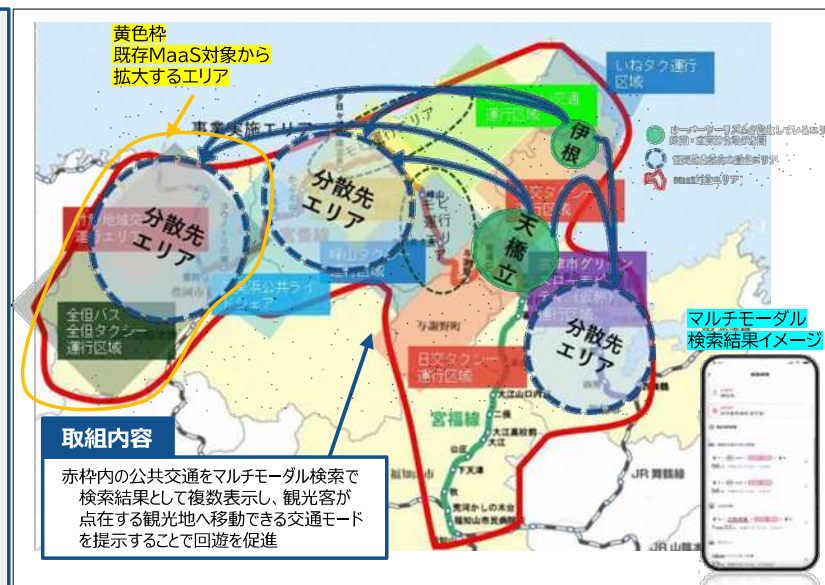
- mobi（峰山・大宮）
- mobi（網野）

【自家用有償（公共ライドシェア）】

- ささえ合い交通（丹後町）
- 京丹後公共ライドシェア ★
- 久美浜公共ライドシェア（久美浜町）
- 竹野地域交通「たけの〜」 ★
- 宮津市グリーンズローモビリティ（仮称）

【日本版ライドシェア】

- 竹野地域交通「日本版ライドシェア」 ★



過年度の同様の取組の有無

※申請者（又は実施体制内に記載された者）が実施地域において過去2年以内に実施した取組を中心に記載すること。

- 2025年度に日本版MaaS推進支援事業で、沿線交通リデザインプロジェクトを実施し、観光MaaSアプリの開発を行い、京丹後における実績値は以下の通り。課題としてはプロモーションが京都丹後鉄道線内にとどまり、海外顧客にアプローチが十分できなかった点、現時刻発での検索しかできず、観光客の利用がそれほど伸びなかった。
- アプリ内での経路検索回数 757回（2月単月）
- アプリ利用者は、非利用者に対して「1回の旅行で訪れる観光エリア数」が平均で0.6箇所多い2.8か所
- 天橋立エリア⇒京丹後市への経路検索回数 57回（2月単月）

その他の事項

広域連携観光戦略への記載	—	地域一体型との連携	○（海の京都DMO）
事前着手の有無	—	複数年度の計画申請	—

補助事業名：分散に向けたモビリティ・データの取得と計画立案事業

補助対象事業者名：WILLER株式会社

対策計画名：海の京都エリアにおけるオーバーツーリズム緩和のための
デジタル連携による広域周遊・分散計画

申請主体：WILLER株式会社、対象地域：京都府北部（海の京都エリア）、兵庫県豊岡市

交付決定前

事業目的

- オーバーツーリズムが課題である天橋立・伊根について、混雑する時間帯や特定の場所をマルチモーダル検索利用データより集計し可視化し、オーバーツーリズムの時間的・空間的な実態把握に役立てる
- 鉄道、路線バス、コミュニティバス、オンデマンド交通（公共ライドシェア）等の既存公共交通の移動・運行データをアプリを通じて一元的に収集、分析し、来年度に向けて、地域への来訪者に対して、季節、時間帯等に応じた最適な交通手段を提供するとともに、地域全体の持続的かつ効率的な公共交通ネットワークの検討に役立てる

KPI（事業目標設定）

分析データ数

- 現状値：アクティビティ 9件（日本語掲載件数）、クーポン利用 50件/月、デジタルチケット購入：29件/月
- 現状値：マルチ検索利用数：757件/月（2月単月）、天橋立エリア⇒京丹後市への経路検索回数 57回（2月単月）
- 目標値：アクティビティ 50件（掲載件数）、クーポン利用 100件/月、デジタルチケット購入：100件/月
- 目標値：マルチ検索利用数：3,000回/月、天橋立・伊根エリアから他地域へのマルチ検索件数：150回/月

KPIの設定理由：

本事業においては、他事業の実施状況によってサンプル数が異なるものの、検索データ、予約データ、属性データの分析を行う。

KPIの測定方法：

MaaSアプリと連携しているデータ基盤システムならびに配車予約システム、デジタルチケットシステム、クーポンシステムの管理画面活用し、計測する

事業概要

※実施する事業について、どこで、いつ、だれが、何を目的に、どのように実施するかを明記するようにしてください。
 ※また、特に実証事業に当たっては、今回申請する手段・手法を選択した背景・考え方について、明記するようにしてください。
 ※実施するに当たって、他事業者による取組と比較して本事業が有意であると考えられるポイントについて、あれば明記するようにしてください。

【目的・趣旨】

天橋立・伊根について、混雑する時間帯や特定の場所をマルチモーダル検索利用データより集計し可視化し、オーバーツーリズムの時間的・空間的な実態把握分析するとともに、府県境を跨ぐ広域エリアにおいて、鉄道、バス、公共ライドシェア、シェアサイクル、ケーブルカー、観光船等の多様な交通インフラに係る移動データを一元的に集約・分析する。これにより、従来は個別にしか把握できなかった需要を広域的かつ横断的に可視化し、多様な交通モード間の連携を踏まえた需要構造の把握および需要予測の高度化を図り、来年度に向けた観光客の分散計画に役立てる

【実施方法】

- MaaSアプリを通じた検索データ、チケット購入データ、予約データ、属性データをデータ基盤に集約する。
- 新たに導入する予約システムからの移動・予約データを適切に抽出し、BIツールで可視化する
- 各種データを掛け合わせた分析を行い来年度の施策を検討する材料として会議へ提出する

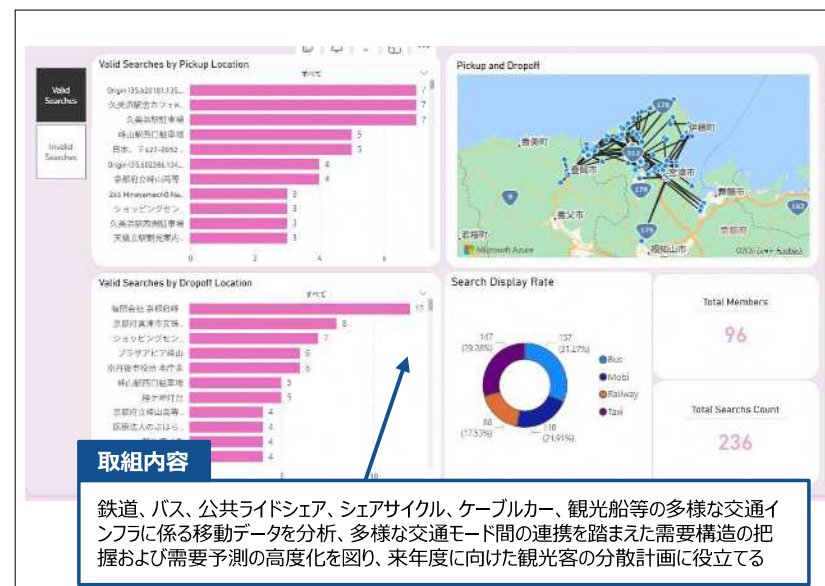
【実施詳細】

移動データを収集する交通モード

- オーバーツーリズム対策直行バス
- 京都丹後鉄道
- 丹後海陸交通の一部路線バス、フェリー
- 全但バスの一部路線
- 京丹後公共ライドシェア
- AIオンデマンド（峰山大宮・弥栄網野）
- 日本版ライドシェア（竹野地域）

データ項目（例）

- 属性データ
- 予約ODデータ
- 利用時間帯データ
- マルチ検索における出発地・目的地データ、時間帯別データ



過年度の同様の取組の有無

※申請者（又は実施体制内に記載された者）が実施地域において過去2年以内に実施した取組を中心に記載すること。

2025年度に日本版MaaS推進支援事業で、沿線交通デザインプロジェクトを実施し、観光MaaSアプリの開発と並行してデータ基盤の開発を行い、ダッシュボードの京丹後市職員の評価は4であり、高評価を得ている。

その他の事項

広域連携観光戦略への記載	—	地域一体型との連携	○（海の京都DMO）
事前着手の有無	—	複数年度の計画申請	—

